

## 第25回九州高気圧環境医学会学術集会の報告

玉木病院 玉木英樹

九州高気圧環境医学会の前身は1988年に発足した九州・沖縄地区高気圧環境医学懇話会であるが、2000年には現在の独立した新たな学会として発展しており、今回は記念すべき25回目の開催となった。学術集会のテーマは「ダイバーシティ～高気圧医学の創造と展開～」としたが、高気圧酸素治療（HBO）は多種多様な疾患に用いられており、このことは今日の激動する社会と相通ずると考えたからである。医療を含む社会全体、さらに組織内でも多様な視点と専門性を有する人材の存在が求められており、それぞれの能力を最大限に発揮するためには、柔軟かつ創造的な思考と多職種間の協働が不可欠である。

今回の学術集会には19題の一般演題を応募いただいたが、3つの講演と安全管理研修会を組んだ。一般演題では、HBOと潜水・潜函作業の高気圧医学の全般にわたり安全性の確立に向けた報告が多かった。これは国内外での事故報告による緊張感の表れと思われるが、同時に安全管理研修会でも安全対策での実務的な要点が述べられていた。高気圧医学の歴史の特徴は様々な難治性疾患へのHBOの応用であると同時に、その安全対策と事故防止に多大な労力が費やされてきたことである。



一般演題発表

教育講演では戸畑共立病院がん治療センター長の今田 肇先生に、「がん治療への高気圧酸素の併用治療」について、この領域の先駆者として多数の治療例とその結果を紹介してもらった。高気圧医学の発展を考えると、がん治療へのHBOの活用は極めて重要であると考えている。次いで、日本高気圧潜水医学会の代表理事である柳下和慶先生には「高気圧酸素治療の将来的展望」でご講演いただいた。国内外での幅広い活動が紹介されると同時に、HBOの安全対策と教育の重要性についての指摘があったが、2024年に2つの学会が合併して1つの専門医学会として新たな指針が示された。最後に、日本医師会長の松本吉郎先生には「日本医師会の医療政策」として喫緊の重要課題についてご講演いただいた。わが国が抱える医療や社会福祉の問題に加えて、全国の医療機関の危機的な経営状況、さらに医療界の考えを医療政策へ反映させる医師会の取り組みが紹介された。

当院は幕末維新で知られる山口県萩市に所在するが、九州あるいは中国・四国地方からも参加いただくために開催地を北九州市小倉とした。また、学術集会の運営全般において戸畑共立病院臨床工学科の方々に協力していただいた。ここに改めて感謝の意を表したい。



特別講演  
松本吉郎先生（公益社団法人 日本医師会長）  
「日本医師会の医療政策」